

米子市指定史跡

# めぐみ 目久美遺跡

— 弥生時代編 —



昭和28年の調査



目久美遺跡の水田(昭和57年)



昭和9年の調査



大谷遺跡の水田(平成19年)

鳥取県米子市教育委員会

# めぐみ 目久美遺跡 — 弥生時代編 —

目久美遺跡は、米子平野の南端、加茂川左岸に位置する集落遺跡です。

昭和8年（1933）に行われた新加茂川の開削工事中に土器が発見され、その翌年には京都大学の梅原末治（考古学）による調査が行われ、縄文時代と弥生時代の複合遺跡であることが確認されました。その後も開発に伴う発掘調査が行われ、山陰を代表する低湿地遺跡であることがわかりました。昭和52年（1977）には市の史跡指定を受け、現在は緑地約300㎡が保存されています。

今から6000年ほど前の縄文時代前期には、目久美遺跡は海に面した集落でしたが、今から3000年ほど前の弥生時代前期には、海が退いて湿地が広がり、水田や大規模な水路を持つ集落が営まれます。また、弥生時代中期末頃に大規模な水路が掘削されています。この水路は、長さ数百mにわたり、目久美遺跡と西に隣接する大谷遺跡を貫くように掘削されています。水田に水を供給するために造られた水路と考えられますが、弥生時代後期にはこの大きな水路が埋まるほどの大洪水が起こり、目久美遺跡での弥生人の生活は途絶えてしまいます。その後、古墳時代に入ると隣接する池ノ内遺跡で再び水田が開かれますが、古代人が常に自然と向き合いながら米作りをしていた様子が窺えます。



水田に残る足跡



大規模な水路跡



水路の護岸跡



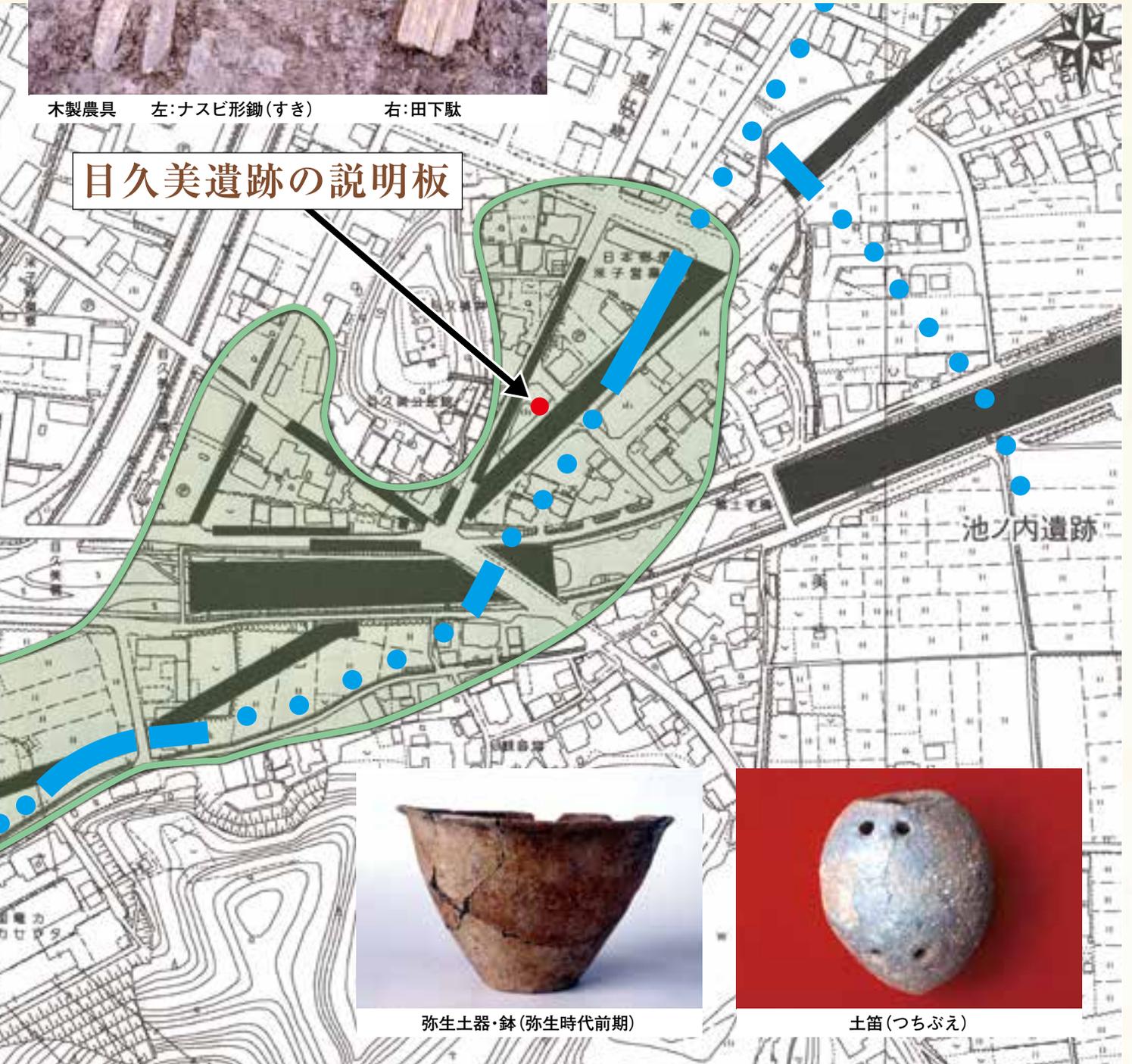
木製盾(たて)



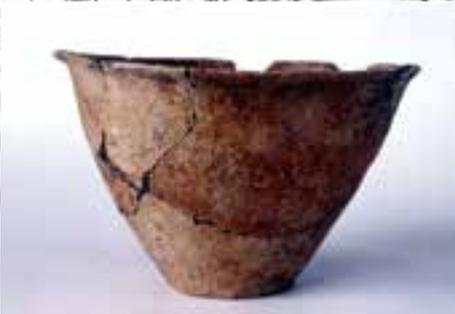
木製農具 左:ナスビ形鋤(すき) 右:田下駄

### 目久美遺跡の弥生時代中期水田域想定図

-  : 水田の範囲
-  : 発掘調査範囲
-  : 水路の範囲



## 目久美遺跡の説明板



弥生土器・鉢(弥生時代前期)



土笛(つちぶえ)

### 目久美遺跡の主な遺物

弥生時代の目久美遺跡からは、貯蔵用の壺(つぼ)、煮炊きに用いる甕(かめ)などの土器や、土笛などの土製品、稲の収穫に用いる石包丁などの石器や木製品がたくさん出土しています。

土笛は、卵形をした中空の土製品で、すぼまった口と胴に孔が開けられています。祖形は中国の陶埙(とうけん)という笛であり、主に日本海側の遺跡から出土しています。

木製品は、鋤(すき)や鋤(くわ)、田下駄などの農耕具が出土しており、当時の農耕文化を具体的に物語っています。また、槌、栓、容器、浮き、木鎌、弓などの生活用具や、角材、板材、柱の残欠などの建築部材、木製の盾も見つかりました。



上空から見た目久美遺跡(1982年撮影)

## 【米子市福市考古資料館】

目久美遺跡から出土した遺物等を展示しています。

- 入館料 無料
- 開館時間 9:30 ~ 17:00  
※ただし入館は16:30まで
- 休館日 毎週火曜日(祝日の場合翌日)  
年未年始(12/29 ~ 1/3)

〒683-0011 米子市福市 461-20  
TEL・FAX 0859-26-3784

## 【米子市埋蔵文化財センター】

市内遺跡出土の遺物を展示・収蔵しています。

- 入館料 無料
- 開館時間 9:30 ~ 17:00  
※ただし入館は16:30まで
- 休館日 土日・祝日  
年未年始(12/29 ~ 1/3)

〒683-0011 米子市福市 281  
TEL・FAX 0859-26-0455



※現在、遺跡は埋め戻されています。

問い合わせ

## 米子市文化振興課

〒683-8686 鳥取県米子市東町 161 番地 2  
TEL 0859 - 23 - 5438  
FAX 0859 - 23 - 5414  
E-mail : bunka@city.yonago.lg.jp